

マガレイ（地方名：アカジガレイ、アカジマコ）



マガレイの成長（年齢起算日は3月1日）

年齢	オス		メス	
	全長(cm)	体重(g)	全長(cm)	体重(g)
1	14.8	36.2	14.8	34.9
2	18.6	66.5	21.3	115.5
3	20.3	83.9	25.8	216.8
4	21.6	99.0	29.0	318.4
5	22.7	113.0	31.2	404.8
6	23.6	125.3	32.7	472.3
7	24.3	135.4	33.8	526.6
8	24.8	142.9	34.5	563.3

沿岸域漁業管理適性化方式開発調査最終報告書(1987)

生態

- 分布・移動：瀬戸内海以北の太平洋岸から日本海全沿岸の水深150m以浅に分布します。福島県沖では主に水深50～100mに分布します。季節的な移動がみられ、1～3月に沿岸域に移動し、水深40～60mの海域で多く漁獲されます。
- 成熟・産卵：オス、メスとも満2歳で90%前後が、満3歳ですべて成熟します。産卵期は3～5月です。
- 食性：多毛類と甲殻類が主体です。

漁獲の動向

平成22年の漁獲量は1,022トン、金額は4億円でした。平成22年の底びき網では、原釜（県北）が全長19～22cmの2～3歳魚が漁獲の主体でしたが、久之浜（県南）では全長20～23cmの1～2歳魚が漁獲の主体でした。

震災後、操業自粛と国による出荷制限のため水揚げはありませんでしたが、平成26年9月から底びき網、平成27年1月から固定式さし網の試験操業が開始されました。漁獲量は76.4～258.4トンで推移しています。令和4年の漁獲量は56.6トン、漁獲金額は24.9百万円でした。

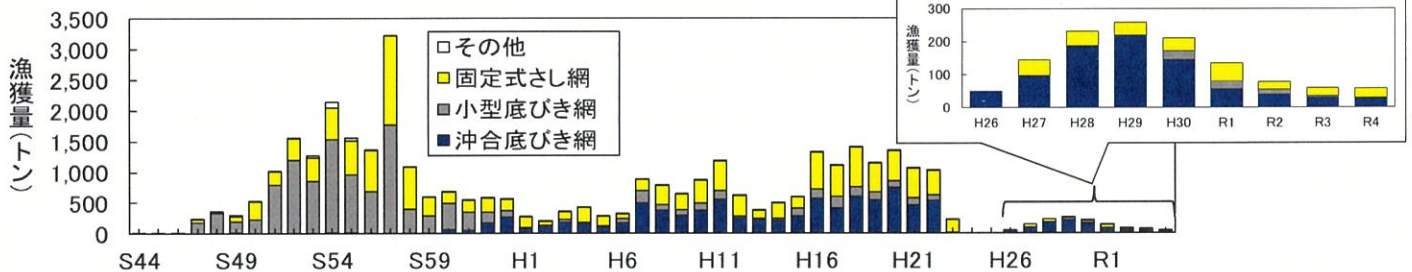


図1 マガレイの漁業種類別漁獲量

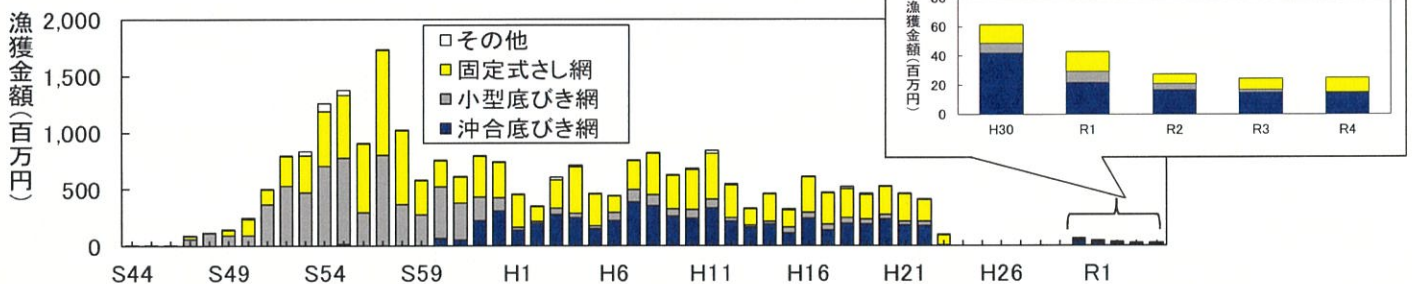


図2 マガレイの漁業種類別漁獲金額

H26～H29年は相対取引のため漁獲金額データなし

資源の状態

- 底びき網のCPUE（1時間あたり漁獲量）は震災後に増加しましたが、平成28年から減少に転じ、令和元年以降は震災前の水準を下回り低水準で推移しています。
- 直近5ヶ年の調査船による分布密度調査では目立った加入は見られていません。

資源の水準：低位
資源の動向：減少

現在実施されている管理策

平成19年から相双地区では小型魚保護のため、以下の自主規制を行っています。

- ・全長16cm未満の水揚げ、販売禁止（周年、底びき網、さし網）
- ・使用目合い3寸4分以上（12月～翌年2月、さし網）

今後考えられる管理策

現状の管理策を継続し、資源を持続的に利用することが必要です。